

平成28年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査

実施日 : 平成28年7月7日 (木)

対象学年 : 5年生

● 観点別結果分析

<p>読み解く力 学校平均 都平均 56.4% 58.9%</p>	<p>読み解く力とは、文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読みとり、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>この調査全体における本校児童の正答率は、64.8%であり、都の平均58.9%を5.9%上回る結果であった。教科別に見ると、国語は9.8%、社会は5.7%、算数は2.1%、理科は6.1%都の平均を上回った。観点別に見ると、取り出す力は7%、読み取る力は7.7%、解決する力は、3%都の平均を上回る結果であった。</p> <p>すべての教科の観点において都の平均を上回っているが、その中で、算数の読み取る力の正答率は低い結果となった。算数の読み取る力をつけるために、条件からわかることを表にまとめて整理する活動や、問題を表や図、式を使っているいろいろな形で表す活動の充実を図る。</p>
<p>取り出す力 学校全体 都平均 78.0% 77%</p>	<p>取り出す力とは、必要な情報を正確に取り出す力である。</p> <p>取り出す力についての本校の児童の平均正答率は、80.7%で、都の平均正答率を7%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を国語では13.8%、社会では5.6%、算数では1.2%、理科では7.5%上回る結果であった。都の平均正答率を上回っているものの、算数の平均正答率がその他の教科に比べて低い要因として、いくつかの文に書かれている事柄から、必要な情報を取り出し、図や表に整理する力の不足が考えられる。正確に文章を読み取る力を高め、必要な情報の取捨選択ができるように指導を図る。</p>
<p>読み取る力 学校全体 都平均 56.3% 29%</p>	<p>読み取る力とは、比較・関連付けて読み取る力である。</p> <p>読み取る力についての本校児童の平均正答率は、63.9%で、都の平均正答率を7.7%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を国語では8.7%、社会では6.9%、算数では9.5%、理科では5.6%といずれも上回る結果となった。</p> <p>一方で、都の平均正答率を上回っているものの、全体として正答率が低かったのが、算数の「問題文に書かれていることを、順序よく表などにまとめ、その関係について読み取る」設問である。段階的に情報を読み取ったり、整理してまとめたりする活動を取り入れ、指導の充実を図っていく。</p>
<p>解決する力 学校平均 都平均 44.9% 88%</p>	<p>解決する力とは、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>解決する力についての本校児童の平均正答率は、49.8%で、都の平均正答率を3%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を国語では7.1%、社会では4.4%、算数では4.6%、理科では5.2%といずれも上回った。しかし、都の平均正答率を上回ってはいないものの、他教科と比べ正答率が低かったのが、算数の「表から読み取ったことをもとに、問題を解決する」設問である。解決するための思考の仕方や、思考に至るまでの手段を考えさせ、その手段で必要になる情報が問題文や資料のどこから取り出せるのかを読み取り、活用する力が必要となる。整理した表からきまりを見付け、考えを広げていく活動を教科の特性に合わせ指導していく。</p>

● 教科別結果分析

<p>国語 学校平均 都平均 77.6% 77.5% 56%</p>	<p>国語における本校児童の平均正答率は、77.6%で、都の平均正答率を1.1%上回った。観点別にみると、都の平均正答率を、関心・意欲・態度では1.4%、言語についての知識・理解では6.4%、読む能力では1.4%上回った。しかし、話す・聞く能力では5.7%、書く能力では8.6%下回った。</p> <p>特に、インタビューをする時の話し方や聞き方の工夫を捉える問題においては、都の正答率が58.1%に対して、本校児童の正答率は43.7%と大きく下回っている。インタビューなどの交流活動を行う際には、その目的を明確にすることで、聞き取るべき事柄を予想したり、判断したりすることができるように指導していく。</p> <p>また、書きたいことが正しく伝わるように書けているかを確認する問題では、正答率が8.0%と非常に低く、都の平均よりも8.8%下回った。「書くこと」の指導の過程である推敲の段階で、文中の主語と述語の働きについて正しく理解し、整合性を意識できるように、日常の作文指導等の中で徹底していく。</p>
<p>社会 学校平均 都平均 77.5% 92%</p>	<p>社会における本校児童の正答率は75.2%で、都の正答率を2.3%上回っている。観点別にみると、都の正答率を技能は0.8%下回っているものの、関心・意欲・態度で、0.7%、思考・判断・表現は6.2%、知識・理解は4.4%上回り、改善が見られた。</p> <p>技能に関しては、学習の際に、資料からどんなことを読み取ることができるのかを考え、説明をしたり、他教科でも表やグラフの読み取りをする活動を取り入れたりすることで、どの資料に着目すべきか取捨選択する力を身に付けさせていく必要がある。</p> <p>また、都道府県の位置と名称を理解する問題では、都の正答率55.2%に対し、本校の児童の正答率は49.4%と5.8%下回っている。生活の中で分かった都道府県の位置を一つ一つ地図帳で確かめたり、伝統や文化などの特色について調べたりする活動を取り入れていく必要がある。</p>
<p>算数 学校平均 都平均 66.8% 71%</p>	<p>算数の問題における本校児童の平均正答率は63.7%で、都の平均を0.8%上回っている。観点別にみると、都の平均正答率を数学的な考え方で4.1%、技能で5.0%、知識・理解で4.6%上回った。</p> <p>しかし、最も課題となるのは、関心・意欲・態度が都の平均を45.8%も下回ったことである。約46%近くも都の平均より低い要因として、問題別にみると、学習したことを後の学習に活用する力が弱いことを示している。</p> <p>問題ごとに都の平均と比べると、「数量や図形についての技能」では、「小数+小数の計算」は12.3%上回っているが、他の計算の技能は都の平均を2%前後下回っている。「数量や図形についての知識・理解」の「がい数を使った見積もり」や「数学的な考え方」の「展開図」などは都の平均を約2%前後下回っている。</p> <p>計算につまずきのある児童には、「計算の仕方」だけではなく「計算の意味」から十分に理解させる必要がある。計算の意味について確認した後に、東京ベーシックドリル等に繰り返し取り組ませることにより技能の向上と定着を図る。また、例題を演習するなどの基礎基本の徹底理解を図ると同時に、導入時においては興味・関心をもてるように工夫していく。児童一人ひとりの理解度を把握し、簡単な問題でも解決できたことを認め、褒めていくことを通して、関心・意欲付けをしていく。</p>
<p>理科 学校平均 都平均 63.8% 55%</p>	<p>理科における本校児童の平均正答率は、68.5%で、都の平均正答率を5%上回った。観点別にみると、関心・意欲・態度で、0.6%、思考・判断・表現では4.7%、技能では7.6%、知識・理解で5.2%都の平均正答率を上回った。</p> <p>技能に関しては、「検流計のつなぎ方」や「星座早見の使い方」の実験・観察器具の使い方についての正答率が80%以上と、都の平均を大きく上回った。観察・実験の技能を確実に習得するために、一人一人の児童が実際に器具を扱って実験を進められるようにしたり、繰り返し操作させたりする指導を、今後も続けていくようにする。</p> <p>知識・理解に関しては、観察・実験を通して、実感を伴った理解を図るとともに、確実な理解につなげていくために、科学的な言葉や概念を適切に使って考えさせる学習活動をしていく必要がある。</p>

